

平成26年度 茨城県グローバル人材育成プログラム

チェコ共和国・ホモルカ病院での短期留学経験

筑波大学附属病院 循環器内科 増田慶太

このたび、平成26年12月28日～平成27年3月15日まで、チェコ共和国・プラハのホモルカ病院 (Na Homolce Hospital) へ短期臨床留学をする機会をいただきました。茨城県グローバル人材育成プログラムの存在は既知に抱いており、「来年度くらいにゆっくり応募してみよう」、くらいに思っていたのですが、医局の方から急に留学の話があり、かなりバタバタで事が進みました。ほとんど準備もできないままの出発になってしまい、また留学先もチェコで、「なぜにチェコ?」、という素朴な疑問もありましたが、実際に行ってみればとても勉強になり、かつ観光するにもとても良いところで、今では本当に「チェコでよかった!」と思っています。

私は医師11年目で循環器内科医をしています。専攻は不整脈で、カテーテルアブレーションや、ペースメーカーなどのデバイス治療を主に行う分野で、3Dマッピングやバルーンアブレーションシステム、埋込型除細動器など、様々な治療機器を日常的に扱っています。他の分野の医師にとっては、あるいは不整脈を専門としない循環器内科医にとってですら、難しくとつきにくく感じられる分野かもしれません。このような機器は、パソコンと同じように、常に新しいものに進化していますので、扱う側にとっても日々勉強しながら catch up していかなければなりません。今回留学したホモルカ病院は、チェコ国内で3本の指に入る循環器治療の大規模施設で、国内の病院から不整脈の患者さんが次々と紹介されて集まって来ます。年間件数はアブレーション・デバイスともにそれぞれ1000件弱あり、日本でもこれだけの件数をこなす病院は数えるほどしかないのではないかと思います。チェコの人口は約1000万人と日本の10分の1以下ですので、その規模の大きさがわかるかと思えます。それだけの件数を、わずか6人の医師でこなしていますので、毎日朝から夜まで忙しそうに働いていました。私はカテ室に配属され、治療を行う医師と主に英語で discussion を行いながら症例見学を中心に行いました。症例の最後まで見学するようにしていましたので、帰宅は夜になることが多く、平日はほぼ病院に缶詰めの状態だったと思います。

ホモルカ病院で行われているアブレーションとデバイス治療は、日本とはだいぶ趣が異なるものでした。まず、使われている機器が違いました。日本で通常使用されるラジオ波カテーテルアブレーションだけでなく、クライオバルーンアブレーションやレーザーバルーンアブレーション、Steleotaxis や Magnetecs といった術者が操作室で遠隔操作をして行うアブレーションシステムなどが日常的に使用されていました。デバイスにおいても、リードレスペースメーカーや皮下植込み型 ICD、非常に小型化された次世代ループレコーダーなど、日本ではまだ見ることができないデバイスを間近にたくさんみることができました。手技に関しても、百戦錬磨の医師達が短時間であつという間に終わらせてしまいます。「いつも日本でやっている手技がこんなに簡単にできてしまうのか」と非常に感動しましたし、そ

の技術を盗むべく、手の使い方から術者の立ち位置まで、細かい部分まで観察するように心がけました。治療の進め方・ストラテジーに関しても、日本と違う部分が多々ありました。時間的な制限や国民性の違いなどによる部分もありましたが、毎日 discussion を行う中で理解していくことができたと思います。私は主に見学が中心でしたが、1日1例くらいはアブレーションの助手に入って手伝いをしました。心房粗動や房室結節のアブレーションなど簡単なものはスタッフの監督の下、術者として行う機会もあり、日本で何回もやったことがある治療とはいえ、言葉も道具も環境も違う中での手技はとても緊張しました。そして何よりも、チームの一員として仲間に入れてもらえたことはとても嬉しかったです。

年度末が近いこともあり、実際の滞在は2か月半と非常に短いもので、本当にあっという間でした。今回の滞在は、語学の勉強だけでなく、専門分野の勉強という点でもとても実りの多い経験であったと思います。ホモルカ病院で使用されていた機器の多くは日本で未承認のものです。近い将来日本でも使用されるようになると思います。日本に帰国後は、使い方のノウハウや、欧米での考え方のトレンドなど、得られたものを周りに還元していくことができると思っています。最後に今後留学を検討されている皆さんに一言。百聞は一見にしかずですので、是非日本と違う環境に身を投じて異なる世界を経験してみてください。きっと医師としての幅が広がると思います。また、語学力は現地に行けばどうとでもなりますし、英語がわかれば最低ラインはクリアできますが、現地の言葉（私の場合はチェコ語）も勉強することを強くお勧めします。日本で日本語を話す外国人に出会うと親近感がわくのと同じで、現地の言葉でちょっとコミュニケーションをとるだけで、相手との距離が一気に縮まって留学生活が楽しくなると思います。